

MINDAN



脱北者支援 Report

編集・発行 = 脱北者支援民団センター TEL:03-3454-5811(FAX兼) e-mail: sien@mindan.org



記者会見の様子（脱北者(左)はプライバシー保護のため帽子とマスクを着用しています）

「脱北者支援民団センター」 を設立し本格的に乗り出す

< 主な趣旨 >

民団は、北韓を脱出し日本に渡ってきた元在日同胞を中心とする脱北者らがこの地で安定した社会生活を送れるよう人道的な立場から援助するため「脱北者支援民団センター」を6月4日に設立いたしました。現在約50人の在日脱北者が日本に戻ってきており、彼らの現状は、日本語、就業、住宅や社会への適応問題など多くのハンデを背負い厳しい生活を余儀なくされています。彼らはまた、北韓に残してきた家族の安全を確保す

るため、日本で自己の存在が表ざたになるのを極度に恐れ、自由な活動を自ら制限せざるを得ない状況にあります。なおも極悪な食料状況が続くようだと、今後さらに多くの北送同胞が北韓を脱出し日本に戻ってくることが予想されます。「脱北者支援民団センター」は同胞として彼らの苦境を座視できないとの自然な情愛と純粋な人道的立場から彼らを支援していくことを目的とするものです。在日同胞をはじめ日本の皆様幅広いご理解とご支援をお願いする次第です。

交流会が脱北者に好評

< 脱北者交流会の開催 >

7月20日と8月3日に関東・関西地区に分かれ焼肉レストランで「脱北者交流会」を行いました。脱北者は関東14名、関西11名が参加し、支援に関わる民団関係者とNGO(市民団体)の方々を全て合わせると両方で60名が集まりました。交流会の構成は2部に分かれており、第1部ではセンター代表の挨拶から始まり、センター設立後の経過報告、韓国語で問診が出来る医師の紹介や個別の生活相談を行いました。第2部では別室に移り、脱北者らは和やかな雰囲気の中で焼肉や冷麺などを食べながら交流を深めました。

ら一時定着に必要な援助を行いました。そのあと北韓や脱北した経緯などの苦勞話を聞きながら一緒に食事をしました。当センターでは団員有志のご協力を得て住居と就職を斡旋しました。

< 脱北者のよろこびの声 >

(脱北者A氏)

自分と同じ境遇の人たちに会えてとても嬉しかった。これからは連絡を取り合い悩み事などを聞いたり、情報交換をしていきたい。是非また参加したい。

(脱北者B氏)

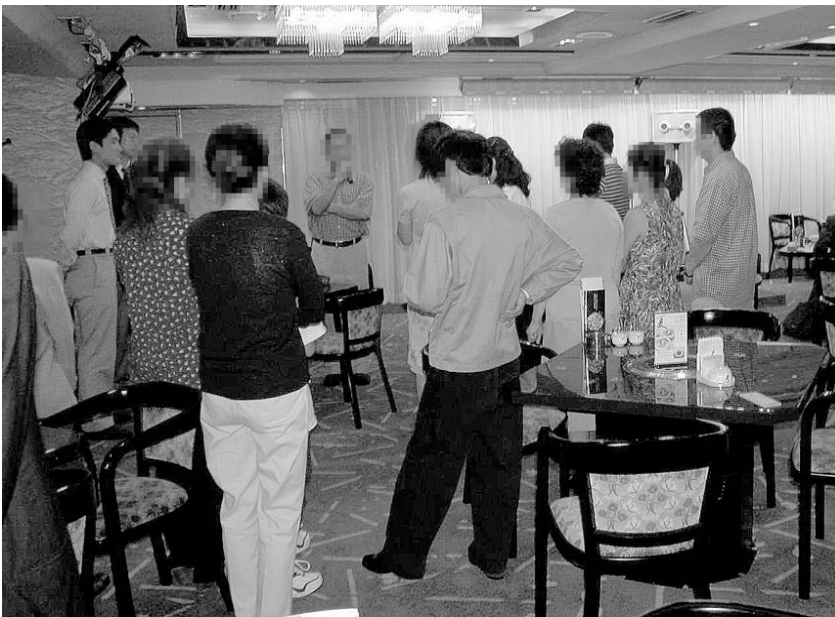
一所懸命働こうと思っても就職口がなく困っていた。相談に乗ってもらってよかった。

(脱北者C氏)

体の調子が悪いが日本語で細かい表現が出来ないので韓国語が話せる医師を紹介して頂いて助かった。

(脱北者D氏)

日本語学校を紹介して頂いてよかった。一所懸命頑張りたい。



交流会では医師が韓国語で健康に関する説明をした

(脱北者E氏)

< あらたに脱北者2人が帰国 >

9月中旬にあらたな脱北者2人が第三国を経由して成田空港に到着しました。当センターの事務局担当はこの件の支援に携わってきたNGO(市民団体)の方たちと脱北者を空港まで出迎えるに行ってきた。脱北者らは空港から出てきた瞬間、叔父と叔母にあたる親族の方々と肩を抱き合い涙の再会となりました。成田空港から東京に移動し、簡単な歓迎会を行い当センター代表が

私達を支援して頂ける人が沢山いることを知り心強い。安心した。

(脱北者F氏)

仕事ばかりの毎日だったのでとてもリラックスできてよかった。料理もすごく美味しかった。

(脱北者G氏)

民団が我々の支援に本格的に乗り出してくれたのが心強い。生活面での相談をお願いしていきたい。

チャリティーなど様々な 支援者が集まっています

< 各地でチャリティーゴルフ開催 >

民団が展開している脱北者支援活動に少しでも役にたちたいということで、各地でチャリティーゴルフを開催していただきました。詳細は下記の通りです。

○主催：栃木韓国商工会議所

日時：2003年 9月 9日

場所：栃木県宇都宮市

参加：200名 募金：300,000円

○主催：在日大韓蹴球団

日時：2003年10月 2日

場所：静岡県御殿場市

参加：180名 募金：204,000円

○主催：神奈川青年商工会

日時：2003年10月27日

場所：千葉県木更津市

参加：240名 募金：200,000円

< 日本語学校の無料講習 >

脱北者の中には北韓で生まれ育った子供と一緒に日本に帰って来ている人も何人かいます。当センターでは日本語学校を運営している方々に脱北者支援のご了解を頂きまして、無料または格安で受講できるように快諾を頂きました。一部の脱北者らは日本で定住するために一所懸命日本語の勉強をしています。

< 就職先のご提供 >

脱北者らは北韓に家族をおいてきていることなどで身分を明かすことが出来ず就職先を探すのに困っています。北関東にある養鶏場では脱北者を受け入れて頂いて住み込みで働いています。また、民団幹部経営のスクラップ工場に住み込みで働けるとのご連絡も頂きました。

< 韓国語の話せる医師が協力 >

脱北者らは北韓での過酷な飢餓状態と長い隠遁生活のために心身共に疲労が重なっており、体の変調を訴える人も少なくありません。何十年ぶりに日本に戻ってきた人は思うように日本語で病状を説明できず、また日本に来てすぐに保健証を貰えるわけではありませんので、当センターの趣旨にご理解を頂いている内科・歯科の医師にご協力をいただき、健康診断や治療を施して頂いております。

< 交流会の場所と食事の提供 >

今年の夏に関東・関西地区に分けて脱北者の交流会を行いました。参加者は身分を明かせないことから日頃なかなか友人関係が作れないので、同じ痛みが分かり合える者同士で集まる場所を求めています。脱北者支援に賛同して頂いている飲食店経営者の方に場所と食事を提供して頂き、和やかな雰囲気盛況に行われました。今後も交流会を継続していきたいと思っております。

丁讚宇氏らが12月に コンサートを予定

12月13日に丁讚宇氏らによる脱北者チャリティーコンサートを中央会館で開催する予定です。丁讚宇氏はニューヨークのカーネギーホールやウィーンのシェーンブルン宮殿などのホールにて世界的に有名なオーケストラとの数々の共演をはじめ、リサイタル、室内楽等の演奏を行っている在日韓国人の名ヴァイオリニストです。また、2001年1月にJR新大久保駅で起きた事故によって亡くなった韓国人留学生の李秀賢君、カメラマンの関根史郎さんをしのぶ追悼コンサートを行われた方でもあります。当日はアインシュタインの愛したヴァイオリンの名器「グフルネリ・デル・ジェス」で奏でられた美しい音色をお楽しみください。

HELP!
助けてください！
在日脱北者たちは
みなさんの支援を求めています

具体的な支援
○住宅・職場の斡旋
○日本語学校の斡旋
○生活習慣アドバイス
○生活相談
○カウンセリング
ボランティアも
募っています

募金にご協力をお願いします
郵便振替口座 00150-5-546257「支援センター」
最寄りの韓国民団にも募金箱を設置しています
脱北者支援民団センター
03-3454-5811 (FAX兼用)
E-mail: sien@mindan.org
MINDAN

< 募金総額が 800 万円を越す >

毎年、全国各地の民団本部・支部で行われている8.15光復節記念行事において募金活動を実施しました。また、憲法機関である平和統一諮問委員会の方々や各地でのチャリティーゴルフにもご協力頂きまして、たくさんの募金が集まりました。感謝を込めて下記の通り報告します。

○ 民団募金	4,713,146円
○ 平統委員	2,757,940円
○ 其他(民団以外)	676,430円
合 計	8,147,516円

(2003年11月 4日 現在)

< ポスター・ビラ・募金箱を送付 >

このポスターは当支援センターで作成し、本部・支部の会館に貼ってあるものです。ご入用の方は無料で送付致しますので、お気軽にご連絡を下さいませ。なお、募金箱やビラもあります。

< 関連書籍のご紹介 >

「脱北者」
北朝鮮から逃げられなかった男――

韓元彩【著】 李山河【訳】
文庫判 286頁 晩聲社 1,200円

政治的抑圧と飢餓から逃れるため、命がけて中国との国境を越える【脱北者】。北朝鮮に送り返された【脱北者】は拷問を受け強制収容所に送られるか、死刑に処せられる――。

奇跡的に三度の越境をした著者が、その凄惨な体験をもとに北朝鮮の実態を告発。

著者/韓元彩[ハンウォンチェ]

1943年、咸鏡南道出身。1967年、咸興化学工業大学卒業。朝鮮人民軍後方総局直属吉州/パルプ連合企業所設計室に勤務、1974年からは保衛部秘密工作員を兼務。韓国への亡命を求めて家族とともに脱北するが、2000年9月に北朝鮮に送還されて拷問を受け、死去。

翻訳者/李山河[イーサンハ] 愛知県出身。

朝鮮半島から渡日した父と日本人の母の間に生まれる。社会主義祖国北朝鮮に帰国すべく新潟日赤センターまで行くが母親が日本人だからという理由で拒絶される。

郵便振替口座番号 00150-5-546257

「脱北者支援センター」口座

〒106-8585 東京都港区南麻布1-7-32 韓国中央会館6階

電話・FAX: 03-3454-5811